

## Valeant社とのライセンス契約締結のお知らせ

平成25年10月、Valeant Pharmaceuticals International Inc.の関係会社であるValeant Pharmaceuticals North America LLCより、同社が米国において褐色細胞腫を対象に製造・販売している「メチロシン(一般名)」に関して、日本における独占的な開発販売権を取得しました。

褐色細胞腫患者では、過剰に産生されたカテコールアミンにより、高血圧をはじめ、頻脈、不整脈、動悸、蒼白、頭痛などの症状が認められますが、メチロシンはカテコールアミンの産生を抑制することで、高血圧などの循環器症状を軽減する薬剤です。

メチロシンは、1979年に米国で承認・上市されており、日本では未承認薬・適応外薬の開発促進のために厚生労働省の主催で設置された「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において開発企業の募集が行われた化合物です。

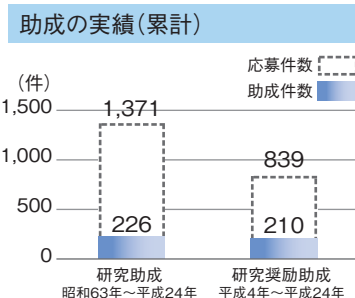
今回の契約締結により、メチロシンを開発・販売することで、褐色細胞腫の治療に貢献できるものと考えています。

## 小野医学研究財団設立25周年

昭和63年に設立した「小野医学研究財団」が、今年25周年を迎えました。

当財団は、医療現場に密着した、脂質代謝異常に伴う疾患の病態生理、メカニズムの解明および治療の研究であり今後の医療に貢献し国民の福祉の向上に寄与すると認められるものに対して、研究助成および研究奨励助成を行ってきました。25年間の実績は、研究助成226件、研究奨励助成(満40歳以下の研究者対象)210件におよんでいます。

脂質代謝異常は、成人病のみならず多くの疾患と深く関係しており、脂質代謝異常に伴う疾患の研究を通しての創造性の高い治療法の開発は、患者さんに大きな恩恵をもたらすことが期待できます。今後とも、当社は小野医学研究財団を通して脂質研究進展のための助成活動を続け、医療の発展や健康と福祉の向上に寄与したいと考えています。



## コーポレート・ガバナンスの強化について

当社は、企業価値の向上を図るために、法令遵守はもとより、経営における透明性を高め、経営管理機能を強化することが重要な課題であると考えています。

そのため、当社では監査役(会)設置型の経営機構を採用し、取締役会および監査役会の機能強化を中心としたコーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

取締役会については、本年6月に、経営の健全性、業務執行の的確性の維持および向上を目的に、管理会計・原価計算を専門とする大学教授と、政治・経済・社会分野に精通したシンクタンクの研究主幹という、企業経営について幅広い知識と高い見識をもった方々を社外取締役として招聘し、コーポレート・ガバナンスのさらなる強化を図りました。

監査役会については、社外監査役2名を含む4名の監査役が、それぞれ取締役会および重要な会議に出席するほか、取締役から事業の報告を受け、聴取するなど、取締役の職務執行の監査を行っています。なお、社外監査役は、弁護士および公認会計士がそれぞれ1名就任し、客観的かつ専門的な視点から監査を行っています。



(左から)手塚 荒木 西村 間石 藤吉 粟田 佐野 相良 川淵 加登 小野 栗原 福島